

体 育 科 学 習 指 導 案

令和3年1月20日（水） 第4学年1組（体育館） 指導者 北浦 佑基
大崎 棕太

【単 元】シュートプレルボール

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	シュートプレルボールの行い方についての知識や、シュートやプレル、ボールを操作できる位置に体を移動するなどのボールを持たないときの動きの技能。	シュートプレルボールにおけるチームの課題の解決策を見付ける力、簡単な作戦を選ぶ力、考えたことを伝える力。	シュートプレルボールに進んで取り組むとともに、勝敗を受け入れたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしたりする態度。
児童の実態	- ネットをはさんで相手コートにボールを投げ入れるボンバーゲームの行い方は知っている。 - 両手でプレルすることは初めて経験するため、身に付いていない。 - 片手でボールをコートに打ちつけることができる。	- 動きのポイントを踏まえ、センタリングサッカーにおけるスペースを使って攻める簡単な作戦を選ぶことができる。 - 複数の人数が同時に連携して動くため、複雑な動きになり、ボールを操作しやすい位置でプレーすることについての解決策を見いだすことに課題がある。	- ルールを守り、進んでボール運動に取り組み、友達のよい動きを認めることができる。 - 勝敗にこだわり過ぎてしまい、運動を楽しむことができない児童がいる。
価値	- シュートプレルボールは、相手がシュートする場所を予測しながら守り、相手チームとラリーを続けたり、ボールを自コートにバウンドさせて相手コートにシュートしたりして、プレーすることを楽しんだり、得点を競い合ったりすることに面白さや楽しさがある。また、シュートをする際にボールを保持してもよいという特性がある。そのため、シュートの場面で状況判断が容易になり、誰もがシュートをする場所を決めてシュートをすることができる。 - 攻守共にコート内に3人が入り、全員がボールにさわるというルールを設定することにより、一人一人がボールに触れる回数が増え、シュートやプレルの技能を身に付けることができる。	攻めにつながるボールをつなぐ動きを話し合うことは、必要感をもってチームの課題を解決するために考えたことを友達に伝えることができる。	クライマックスイベントとして、シュートプレルボール大会を行うことは、チームで目標をもち、協力してシュートプレルボールに取り組むことができる。セルフジャッジ制度を取り入れることは、判定に従うことやフェアプレイの大切さについて学ぶことができる。
見方・考え方	シュートプレルボールにおける相手から返球されたボールをつなぐ動きに着目し、プレーしたりプレーを見て考えたことを友達に伝えたり、目標とする動きから動きのポイントを見いだしたりする。		
今後の学習	6年「ソフトバレーボール」で、レシーブ、トス、アタックといった基本的なボール操作とチームの作戦に基づいた位置に動き攻防する学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	互いに協力して、簡単な作戦を選びながら、プレルしたり、シュートしたりして、シュートプレルボールができる。			
評価 規準	(①知・技) シュートプレルボールの行い方を理解し、ボールを操作しやすい位置に移動してプレルしてボールをつないだり、相手コートへシュートしたりすることができ る。 (②思・判・表) プレルやシュートの動きのポイントを見付けたり、簡単な作戦を選んだり、チームの課題の解決のために考えたことを伝えたりしている。 (③主体的態度) 規則を守り、互いに協力したり、勝敗を受け入れたりして、公正に試しのゲームやシュートプレルボールに進んで取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○試しのゲームを行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて ポイントを見付けて、プレル、シュート、ボールを持ってないときの動きを身に付け、シュートプレルを楽しもう	○シュートプレルボールにおける具体的なめあてを立てられるように、「できるようにになりたい動き」、「学び方」、「楽しく安全に運動するためにできること」という視点を提示する。	◇プレルやシュートの仕方や攻め方についての具体的な自分のめあてを記述している。 <学習プリント③>
追究 する	1	○プレルする動きのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○プレルする動きのポイントに気付けるように、「ボールを受ける場所」「体の向き」「バウンドさせる位置」の視点を提示する。	◇ ボールを操作しやすい位置に移動し、プレルする方向を向くなどの動きのポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	○シュートする動きのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○シュートする動きのポイントに気付けるように、「体の向き」「バウンドさせる位置」「足」の視点を提示する。	◇自コートの半分より前で、強くシュートするなどの動きのポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	○守りの位置取りの動きのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○コースに応じて守りの位置取りを想定できるように、ボールと守りの人のコマと、コートを示した作戦板を用意する。	◇ 相手のシュートに応じて、ボールを操作しやすい位置に移動している。 <行動①>
	1	○ ボールを持たないときの動きのポイントを見付け、ゲームに取り組む。(本時)	○ボールを受けるときのポイントに気付けるよう、「体の向き」「3人の間隔」を視点として提示する。	◇1人目がボールをプレルした方向に体を向けて、プレルをしやすい位置に移動している。 <行動①>
	2	○選んだ作戦を試し、練習する。	○簡単な作戦を選ぶことができるように、複数の作戦例を提示する。	◇選んだ作戦を試して考えたことを、仲間に伝えている。 <行動②>
まとめ る	2	○シュートプレルボール大会を行い、学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように「できるようになった動き」「よかった練習方法やアドバイス」「シュートプレルボールの面白さ」という振り返りの視点を提示する。	◇ 自分や友達の動きのよさを認め合うよう発言したり、記述したりしている。 <発言・学習プリント③>

本時の学習（５／９時間目）

ねらい ボールをシュートまでつなげるために考えた解決策を基に繰り返し練習することを通して、ボールの方向へ体を向けて、プレルでシュートまでボールをつなげることができる。

評価項目 １人目がボールをプレルした方向に体を向けて、プレルをしやすい位置に移動している。

<行動①>

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
１ 本時のめあてをつかむ。 ・ ２人目や３人目にプレルがうまくつながらなかったな。どうしたらプレルをシュートまでつなげることができるのだろう。（課題意識） めあて：プレルをシュートまでつなげるために、２，３人目はどのように動けばよいのか ２ ２，３人目のボールを持たないときの動きのポイントを見付ける。 ・ 体の向きに注目して動画を見たら，２，３人目の友達はボールの方向へ体を向けていたよ。ボールの方向へ体を向けることが大切なのかもしれないな。 ・ 友達は，３人が近すぎないことが大切だと教えてくれたよ。 ３ タスクゲームを行う。 ・ 一番目にプレルしなかったときに，ボールの方向へ体を向けてみたら，他の友達のプレーがよく見えたよ。 ・ 友達が，友達との間が少し狭くなっていると教えてくれたよ。 ・ 動画を見たら，みんながボールの方向へ体を向けられていたことが分かったよ。でも，もう少し３人の間隔を広くしてみたらよいと思うな。 ・ ３人の間隔が狭くならず，広くしてみたら，シュートまでプレルをつなげられたよ。 ４ メインゲームを行う。 ・ 今のプレーは，得点はできなかったけれど，ボールの方向へ体を向けて，シュートまでつなげることができていたね。 ・ プレルをつなげるためには，ボールの方向へ体を向けることや３人の間隔を空けることが大切なんだな。これを生かしてシュートまでプレルをつなげることができたよ。（課題を解決した意識） ５ 本時の学習の振り返りをする。 ・ 友達の「もう少し間隔を広くして」というアドバイスのおかげで，ボールの方向へ体を向けてプレルしてボールをつなげることができたよ。	○ 前時の課題となっていた姿から本時の課題を見いだせるように，前時に撮影した動画を提示し，うまくいかなかったことを問いかける。 ○ ボールをシュートまでつなげるために考えたことを基に課題を解決するという見通しをもつことができるように，本時できるようになりたいことを問いかける。 ○ ２，３人目のボールを持たないときの動きのポイントに気付けるように，「体の向き」「３人の間隔」という視点と本時に目標とする動きの動画を提示する。 ○ 見付けた動きのポイントを共有することができるように，視点ごとに整理して動きのポイントを板書する。 ○ 共有した動きのポイントを基に，プレルをシュートまでつなげる動きができるように，タスクゲームの際に，「体の向き」「３人の間隔」について気付いたことを伝えるよう促す。 ○ シュートされるコースや仲間が守る位置などのゲームの状況が変わってもプレルをシュートまでつなげる動きができるように，チーム内で繰り返しタスクゲームを試行するよう促す。 ○ プレルをシュートまでつなげる動きに対する解決策を見いだすことができるように，撮影した動画を用いて，取り組んだ動きをチームで見いだした解決策に照らして評価するよう促す。 ○ プレルをシュートまでつなげる動きの変化や高まりに気付けるように，観察する人の役割を設定し，観察したことをプレーしている友達に伝えるよう促す。 ○ シュートまでボールをつなげるよい動きに気付けるように，ボールの方向へ体を向けてプレルしたボールが，シュートまでつなげた動きの動画を提示し，よい点を問いかける。 ○ 自分の動きに自信がもてるように，ボールの方向へ体を向けてプレルしようとしている児童を称賛する。 ○ 本時の学習の成果を実感することができるように，「できるようになった動き」「友達からのアドバイス」という視点を提示し，学習プリントに本時の振り返りを記述するよう促す。

授業の振り返り

※授業の様子は、本校 HP でも紹介しています。
【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】

機器	タブレット（教師用1台 児童用6台） 大型モニター（1台）
使用アプリ	ロイロノート（教師） カメラ（児童）
機能等	カメラ（評価）

○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 前時に撮影した、3人目がボールに合わせて動けず、プレルがつかないという内容の動画を大型モニターで視聴した。児童は2、3人目の動きによってボールがつかないことに共感し、自チームで同様なことがあったという内容の発言をしていた。このことにより、プレルをシュートまでつなげるために、2・3人目がどのように動けばよいのかという課題意識をもった。

【展開】 児童は、2、3人目のボールを持たないときの動きのポイントを見付ける活動を行った。その際、「体の向き」「3人の間隔」という視点を基に、動きを視覚化する赤い四角が書き込まれた本時の目標とする動きの動画をスローで繰り返し視聴した。児童は、



＜赤い四角で強調して提示した動画＞

「2人目も3人目もボールの方を向いているね」「3人の間隔は狭すぎても広すぎてもだめだね」「ボールによって3人の間隔は変わるね」などの発言をした。そして、これらの発言から「ボールの方向へ体を向ける」「三角形をつくる」「ボールに応じて間隔を変える」という動きのポイントを見付けることができた。これは、視点によって焦点化された目標とする動きの動画を、矢印や四角などで強調して提示したり、目標とする動きをスロー再生で繰り返し示したりしたことにより、シュートプレルボールの特性に応じて動きのポイントを捉えることができた姿であると考えられる。次に、チームごとにタスクゲームを行った。その際、児童は、できばえを評価できるように、動画を撮影した。撮影した動画を視聴し、ボールの方向へ体を向けられていないことを認識したチームは、「(動画をス

ロー再生しながら) この時に、ボールに体をしっかり向けよう」「ボールから目を離さないようにする」といいよ」と解決策を伝え合っていた。これらのことを伝え合ったチームは、ボールの方向へ体を向けて、プレルをしやすい位置に移動することができた。これは、ボールを持たないときの動きを動画で見返し、できばえを評価することにより、目標とする動きへと動きが高まっていった姿であると考えられる。一方で、児童は、コートの後方から撮影した動画から、3人の前後の距離が捉えられず、前後の距離についての解決策があまり見いだせなかった。

そして、メインゲームを行った。2、3人目がボールの方向へ体を向け、プレルしやすい位置に移動する様子が、どのチームでも見られ、ボールがシュートまでつながり、ラリーが長く続いていた。教師は、本時のねらいを達成している動きを撮影し、メインゲームの間にその動画を提示した。児童は、提示された動画を見て、「しっかりボールの方向に体を向けているね」「ボールの動きを予測して近付いている」などの動きのよい点を発表していた。これは、一瞬で再現することが難しい動きを動画で示すことにより、シュートまでボールをつなげるよい動きに気付くことができた姿であると考えられる。

【終末】 教師は、「できるようになった動き」と「友達からのアドバイス」という視点を提示し、学習プリントに振り返りを書くよう促した。児童の振り返りには、「ボールに注目して体の向きを変えてプレルしたらシュートまでつながった」「もっと近付いてやった方がいいよって言ってもらって間隔がよかった」という記述があった。

○授業改善に向けて

・児童が撮影する位置を台などを置いて高くしたり三脚を用いたりして、前後の距離に対する評価できるような動画が撮影できるようにするとよい。



＜動画を基に動きを振り返る様子＞



＜ボールの方向へ体を向ける様子＞